



ALSO プロバイダーコース in OSAKA

平成 29 年 12 月 2・3 日開催

Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を身につけ、伸ばすための教育コースです。また産婦人科医のみならずプライマリケア医が分娩を扱えるようになることを意図した訓練でもあります。1991年にACLSとATLSを参考にして、ウィスコンシン州の一般診療医師二人がALSOを考案しました。1993年にコース権利はAmerican Academy of Family Physicians(AAFP—米国家家庭医学会)によって認可され、現在全米では多くの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOを受講することを義務づけられています。またALSOコースは世界的に普及活動が行われており、現在までに63か国、16万人以上がALSOコースを完了しました。

コースの教材は、シラバス(教科書)、レクチャー、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップです。筆記試験とマネキンによる実技試験(メガデリバリー)がコースの終わりにあります。ALSO は分娩室における産科の救急的対処を強調していますが、その他に出産前のリスク評価、妊娠初期の性器出血、患者—医師関係、出産危機における両親のサポート、そして医療過誤リスクの減少といったテーマも含まれています。

プロバイダーコースは二日間にわたって行われます。妊娠初期の合併症、難産、妊娠の内科的合併症、妊娠後期の性器出血、分娩後大出血、早産、前期破水、妊婦の蘇生法、そしてマタニティケアにおける安全性の8つのレクチャーがあります。少人数グループによるワークショップは、肩甲難産、胎位・胎向異常、鉗子と吸引、分娩中の胎児監視、症例検討の5つです。オプション・ワークショップとして会陰縫合、帝王切開、超音波検査、出産危機における両親への対処、そして新生児蘇生の5つから適宜行われます。 **プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合、参加者は AAFP の認定する5年間有効の認証を授与されます。**プロバイダーコースのインストラクターになることを希望する場合、さらに一日間のインストラクターコースを受講しなければなりません。

日本では 2008 年 11 月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、全国35の都道府県でコースが開催され、コース修了者は 5,000 名を越えています(2015 年 12 月末時点)。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、そして医学部生などであり、これまで現在あるいは近い将来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。日本全国のすべての地域で、できるかぎり同じレベルの産科医療を維持するために、**産科医療に関わりたいという志を持った人たち**をトレーニングする場は数多く必要になるでしょう。その足がかりとなるトレーニングコースが ALSO であり、今後日本で普及していくことを願ってやみませんし、またそうなる行くことでしょう。

ALSO プロバイダーコース in OSAKA

主催：OGCS(産婦人科診療相互援助システム)

共催：大阪府医療人キャリアセンター

共催：NPO 法人周生期医療支援機構(OPPIC)

日時：平成 29 年 12 月 2 日(土)、3 日(日)

場所：大阪市立大学医学部スキルスシミュレーションセンター

定員：20 名

対象：大阪府内勤務医師のうち、大阪府医療人キャリアセンター登録会員
(キャリアプラン会員および一般会員)

※誠に申し訳ありませんが定員に達したため募集を終了しました。